

1 貯蔵花粉の発芽試験を実施します

	受付月日	受付時間	受付場所	結果の報告
(旧)第1選果場管内	3月19日(火)	午前9時~10時	梨会館	受付翌日、梨会館入り口
(旧)第2選果場管内	3月20日(水)	午前9時~10時	梨会館	受付翌日、JAなのはな南部支店、(射水市は別途対応)

2 病害虫対策について

(1) 黒星病対策 (落葉処理)

①落葉処理の実施面積率は、昨年11月からの天候が概ね良好で、作業が順調に進んだことから、ほぼ100%となっています。

②なお、3月下旬から落葉からの孢子飛散が始まるので(右表参照)、3月中旬までに、処理後の園地内(特に園地周囲、幹元)や周囲の側溝などに葉が原形のまま残っていないか、確認を行って下さい。
(必要であれば、落葉処理を再度行って下さい。)

③りん片脱落期に枝をふるってもりん片が落ちない芽や枯れたりりん片が残っている芽は、黒星病罹病芽の恐れがあるので切除して処分して下さい。

④黒星病の芽基部病斑は見つけ次第、摘み取って園外に持ち出して処分して下さい。(特に受粉前には作業の徹底を)

表 過去の黒星病孢子飛散開始日

	H30年	H29年	H28年
飛散開始日	3月27日	4月5日	4月13日

※開始日は累積飛散孢子数が全孢子数の2~3%となった日



<落葉処理が不十分な園地例>

ロータリーの走行速度が速く、爪も深すぎて、葉が原形のまま浮き上がった

※黒星病対策は、平成28年1月に配布された「呉羽梨黒星病対策指針」や「黒星病Q&A集」なども参考にし、的確に取り組みましょう。

(2) 農薬防除の実施について(昨年、黒星病やカイガラムシ類、ハダニ類が多かった園地を対象とした特別防除)

【害虫対策】下記の農薬のうち、どちらかを選択して下さい。

散布時期	薬剤名	主な対象害虫	濃度	10a当たり散布量	防除実施日
2月下旬 (休眠期)	機械油乳剤 95	カイガラムシ、サビダニ、ハダニ類及びその越冬卵	20倍	200~300 リットル (十分量)	
	アルタベールフロアブル	ハダニ類、クワコナカイガラムシ	40倍		

【黒星病対策】

散布時期	薬剤名	主な対象病害虫	濃度	10a当たり散布量	防除実施日
3月中下旬 (萌芽期)	デランフロアブル	黒星病	1,000倍	200~300 リットル (十分量)	

詳細な散布日は、3月中旬配布予定の「第2号」でお知らせします

【注意事項】

- 機械油乳剤 95 は、樹勢が弱っている場合や昨年も使用した場合、薬害を生じる恐れがあるので注意する。
- 機械油乳剤 95 (もしくは、アルタベールフロアブル) とデランフロアブルの両方を散布する場合、散布間隔を1ヶ月程度あける。
- 散布は暖かくて風のない日を選んで行って下さい。

(3) 耕種的対策の実施

粗皮の隙間にはナシヒメシンクイやハダニ類、カイガラムシ類等が越冬しています。粗皮削りを積極的に行いましょう。また、輪紋病のイボ皮も削り落しましょう。

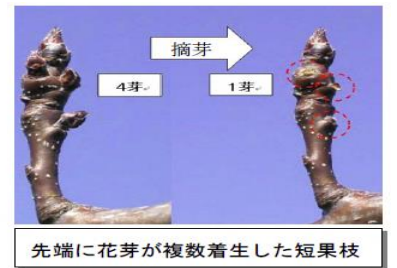
3 誘引・花芽整理

(1) 誘引（棚付け）

- ・側枝バランス（目安：長果枝 50%、2 年生側枝 30%、3 年生側枝 20%）に注意しながら、古い側枝は積極的に更新しましょう。
- ・「幸水」については、できるだけ予備枝を多くとるように心がけて下さい。
- ・側枝密度（間隔 40cm）を確認しましょう。

(2) 花芽整理

- 目的：「豊水」、「新高」等の短果枝利用の品種や「幸水」の摘心処理樹など、短果枝上に複数ついている花芽の中から余分な花芽を整理することで、貯蔵養分の浪費を抑制と、その後の摘蕾、摘花、摘果作業の省力化を図ります。



また、芽を整理することは農薬の掛りを向上させ黒星病発生防止にもつながります。

- 整理方法：果台があるものは果台を残して切除し、副芽は手でかき取る。下芽、弱小花芽は他に十分花芽がある場合には切除する。

4 凍霜害対策

(1) 霜害対策

発芽や開花時期が早まることにより、冷気のみやすくなり、冷気のみやすい園地では、凍霜害の危険性が高まります。開花の早い「新高」「豊水」園や過去に霜害を受けた園地では、予防技術対策について、あらかじめ準備をしておきましょう。

(2) 凍害対策

苗木～4年生位までの樹は、発芽前くらいから急速に耐凍性が弱まり、抵抗力が低下します。凍害が懸念される時期は、日中の気温（15℃以上くらい）が高くなり、朝の気温が-2～-3℃程度まで下がる可能性がある3月中下旬～4月初旬くらいです。

凍害を受けると苗木や若木は枯死することもあるため、下記の凍害対策を行ってください。

<具体的対応策>

- 白塗剤の塗布（日中の温度上昇の抑制）
主幹部に白塗剤（ホワイトンパウダー）を幹部地上 60～80cm に塗布（伸ばす芽には塗らない）。
2kg 袋を6リットルの水で溶かす（3倍、ハケで塗布できる程度）。
- わら巻き（保温）
3月下旬頃までに主幹部を中心にわらを巻く。まとめて仮植してある場合は、コモ等を巻いて保温に努める。



白塗剤の塗布



わら巻き

5 春肥の施用

春肥は融雪後の3月中下旬頃を目安に施用しましょう。

<10a 当たり施用例>

- 例1 BM有機果樹専用(8-7-7) 60～100kg（成分量 窒素 4.8～8.0kg、リン酸 4.2～7.0kg、カリ 4.2～7.0kg）
- 例2 なのはな梨配合(7-7-3) 60～100kg（成分量 窒素 4.2～7.0kg、リン酸 4.2～7.0kg、カリ 1.8～3.0kg）

6 開花予想

1月の平均気温は3.4℃（平年比0.7℃）と高温となりましたが、2月に入ってから、高温傾向が続いています（2月2半旬までの平均気温は4.5℃（平年比2.0℃））

2月11日現在の開花予想日は右表のとおりで、ほぼ平年並みの予想となっていますが、開花時期は今後の気温に大きく左右されます。

最新の情報については今後発行する特報や梨メールでご確認ください。

品種名	平成31年予想	
	開花始め	満開日
幸水	4月19日	4月23日
豊水	4月16日	4月19日
あきづき	4月17日	4月19日
新高	4月14日	4月17日

※今後の気温が平年並みに推移した場合

7 農業サポーターがお手伝いします

平成18年よりサポート活動を開始して以来、農業者の皆さまのご支持を得て、梨の摘果作業などにおいてサポート活動を行っています。昨年は19名の梨生産者の方がのべ844人のサポーターを活用されています。（主な活動内容：人工受粉、摘果、収穫）

農繁期に人手が足りずお困りの方、また、年間を通じてサポートが必要な方は、下記まで相談して下さい。

【お問い合わせ】 特定非営利活動法人(NPO 法人) 里山倶楽部（サポート業務窓口；tel.076-411-4401）
富山市農林水産部営農サポートセンター（tel.076-429-4504）